

札幌社保協 FAXニュース

2006年 7月1日(土)
 社保協事務局 発行
 TEL823-0867 Fax821-3701
 E-mail:s-syaho@kin-ikyoo.or.jp
 http://www.sapporo-syahokyo.jp/

2006年第34回
 中央社保学校
 9月7日(木)～9日
 (土)函館市で開催

「格差社会」でなく、共同の地域・社会を!



札幌社保協第9回総会を開く

札幌社会保障推進協議会は6月22日、2006年度定期総会を開催し、運動の交流と共に年間方針や新役員を確定しました。オブザーバーを含め27団体から40人が参加しました。

あいさつに立った佐藤宏和代表委員は、市の敬老パスが改悪される中で、「この1年間、あきらめることなく調査・交渉・宣伝など、世論作りと市民と共同した粘り強い運動で、1年目にして2つの大きな改善を実現したことは、敬老パス連絡会とその中心と

なった社保協の大きな成果」と述べました。

吉岡恒雄事務局長は、「05年度は介護・自立支援法・医療などの全国的なたたかいと共に、市の『財政構造改革プラン』による福祉削減・サービス後退に反対する運動をすすめてきた。その中で障害者団体との共同が新たに広がった。06年度は憲法と生存権を守ることを大きな柱に、介護・医療の改悪、自立支援法、また当面の国保料の引き上げなどによる被害を食い止める活動に力をいれ、来年の地方選挙に向けて要求運動を強めよう」と報告。

西区社保協の代表は、今回の国保算定方式の変更にもなう保険料引き上げに対し、加入団体でよく議論し、独自の国保・介護・医療などの相談案内ピラを7万枚作成し、ほぼ全戸への配布を始めていることを報告。すでに20件以上の国保料や医療、自立支援法などの相談がきており、大変深刻な相談が多くなっています。ある母子家庭の母親は区役所で2時間以上も待たされて、「高く払えない」と相談すると「去年まで払っていたのだから払って下さい」とだけ言われ、怒って相談案内のピラを持って事務所へ訪れたそうです。

北区守る会の代表は、先日相談に来た男性—16歳の長男が2歳の時に家を買ひ、何とか働いていればローンも返せると思っていた所、会社が倒産、新たに就職した職場ではどんどん給料は下がり、手当も年々なくなり、文句を言えば会社を辞めると言われる、家も手放したが手取り16万円では家族は暮らしていけない—という例を紹介し、「まじめに働いても暮らしていけない今の貧困と格差の広がりひどい」と発言しました。

総会では代表委員に高崎裕子(弁護士)、赤坂正信(地区労連議長)、舩田和比古(道勤医協理事長)、佐藤宏和(道生連事務局長)の四氏(いずれも再)、新事務局長に齊藤浩司氏(道勤医協)を選出しました。

「とってもしっかり払えません」 全市で相談会—国保・介護110番



6月中旬から国保料・介護保険料、住民税の納付通知書が届いて、各区役所は問い合わせや苦情の対応でてんてこ舞いです。110番連絡会の調査では、6月中の国保年金課窓口への来訪者だけで、北区2200、東区2100、清田区800人となっています。電話も含めると全市で1万人以上になったでしょう。

社保協・110番連絡会が呼びかけた今月の相談会は、西区が6/28、南区が6/30、その他の区は6/29に開催され、それぞれ深刻な相談者が来ています。厚別では朝から13人が会場へ相談に来ました。2歳の女の子を抱えた27歳の母親も飛び込みで来場し、自営業がやっていけなくなり、夫がアルバイトで収入を得ている、月10万円に満たない収入で、夫の実家に同居して暮らしている、保険料が上がってもともしっかり払えないと相談。一定の可能な額を分割で払っていくことになりました。

	06年6/1	05/12/1	04/12/1
資格証	12,602	13,641	15,229
発行比率	3.52%	3.89%	4.48%
短期証	33,854	44,542	44,365
発行比率	9.45%	12.71%	13.05%
国保世帯数	358,180	350,574	339,767